

九

二年

画数 2
筆順 ノ九

オノ キユウ・ク
クシ このの・このの 11つ

成り立ち



↓
九 ↓
九 ↓
九 ↓
九

まがりくねつてのびていった「あさがお」などのつるを、それいじょうのびないように、さきをしっかりとめたかたちをあらわした字です。

「とどのつまり(窮極)」といういみで、これいじょうのすう字はないという「このつ」というかすをあらわしました。

中国では、「とどのつまり」を「キユウ」といいますが、これをあらわした字には、「窮」「究」などがあります。

「ク」という音は、「苦(くるしい)」とおなじなので、わがくにではきらわられて「キユウ」といういいかたをこのんでつかいます。

「かすがおおい」いみによくつかわれます。

使い方

▽あなたのおりるえきは、ここから「九つめ」です。
▽かけざん九九をおぼえていないと、かけざんはできないよ。

▽九州りよこうにいきました。

熟語例

▽九牛の一毛(九牛はたくさん牛といういみ。たくさん牛の牛のなかのただの一本の毛、といういみのことばで、「ほんのわずか」というたとえにつかいます。)

▽三拝九拜(中国のあいさつのかたちですが、「ていねいになんどもおじぎする」といういみにつかいます。)

▽九死に一生をえる(十のうち九つまでは死ぬようなあぶないじょうたいのなかでたすかる、といういみのことばで、「あぶないのちがたすかる」こと。)

▽九州(中国ではむかし、ぜんこくを九つにわけて、それぞれに「州」というなまえをつきました。それで、中国ぜんたいのいみにつかいます。わが国では、むかし、ちくぜん、ちくご、ひぜん、ひご、ぶぜん、ぶんご、ひゅうが、おおすみ、さつま、の九つの国を九州といいましたが、この州は「くに」のいみでした。)

休

二年

画数 6
筆順 ノイ 一 竹 休

オノ キユウ
やすむむむむむむ

成り立ち



↓
休 ↓
休 ↓
休 ↓
休

たんぼではたらいっているひと、みちをいくひと、やすむときには、たいてい「木」のしたをえらびます。それで、「木」と「イ(ひと)」とをくみあわせて「やすむ」といういみをあらわしました。

「やすむ」とは「からだをやすめる」ことであり、それは「からだ」が「やすまる」ことですから、「やすめる」とも「やすまる」ともつかいます。

使い方

▽「休日」というのに、一にちじゅうはたらいて、「休息」するひまがありませんでした。

▽ことしの「夏休み」にはしたいことがやまほどあります。

熟語例

▽休日(きねん日や日曜日など、学校や会社などが「お休みになる日」のことです。)

▽休暇(休日でない日に、とくべつなりゆうでゆるしをもらって休むこと。)

▽休息(「息を休める」ということで、「からだを休める」ことです。「休憩」ともいいます。)

▽代休(「代わりに休む」ということで、「休日につとめて、その代わりに休日でない日に休む」ことです。「代日休暇」ということばがあり、この「りやくご」とみることもできます。)

▽定休(定は「きめる」こと。まい月、またはまいしゅう、日をきめて休むこと。例あのデパートの定休日は月よう日です。)

▽連休(連は「つづく」こと。休日がつづくこと。)